



どうぶつ 動物はなぜいるの

い もの しそん 生き物は子孫をふやそうとする

はじ ちきゅう い もの う 生まれるときから、い もの なかま じぶん なかま
初めて地球に生き物らしいものが生まれたときから、生き物は仲間をふやし、自分の仲間
が死にたえてしまわないよう、しそん のこ かんたん からだ い
子孫を残すくふうをしてきました。簡単な体のつくりの生き
物から、ふくざつ こうど い もの しんか あいだ すこ
複雑で高度な生き物へ進化していき、その間に、少しずつほかとちがった生き物が
あらわ 現れ、それぞれがしそん げんざい おお しゅるい い もの う
現れ、それぞれが子孫をふやして、現在のように多くの種類の生き物が生まれてきたので
す。

い もの 生き物は、えさでつながりあっている

い もの は、生きていくためのエネルギーを取り入れないと、しんでしまいます。エネルギー
のもとになるえさも、て はい やすい もの、すこ りょう でたくさんのエネルギーがとれる
ものを得るために、え い もの
生き物はいろいろくふうをしてきました。

さいしょ い もの かいすい なか せいぶん と
最初の生き物は、海水の中にとけている成分を取りこんでいました。やがて、もう少しエ
ネルギーがたくさん取りやすい、ほかの生き物をえさにするようになりました。

しょくぶつ ね す あ ようぶん たいよう ひかり りょう つく
植物は根から吸い上げた養分と、太陽の光を利用して、でんぷんなどを作ります。その
しょくぶつ
植物や、できたでんぷんをウシやブタが食べ、ウシの出す だ ぎゅうにゅう にく にんげん た
牛乳やブタの肉を、人間が食べています。

つち なか どうぶつ むし し びせいぶつ びせいぶつ
土の中には、動物のふんや虫の死がいを、えさにしている微生物がいます。この微生物
のはたらきでできたつち なか ようぶん しょくぶつ ようぶん
土の中の養分が、植物の養分になっています。このように、どうぶつ しょくぶつ
動物も、生き物はおたがいにつながりあって生きていて、あるどうぶつ ぜん
動物が全めつすると、それをえさ
にしていたどうぶつ ぜん
動物も、全めつすることがあります。（監修・今泉 忠明）

